

NEWSLETTER

No. 7

岐阜大学国際交流室

1989年11月5日発行

ルンド大学短期留学生との出会い

国際交流委員会委員長 鈴木正敏

昨年に引き続き、6月3日にスウェーデンのルンド大学からの短期交換留学生10名がきた。短期交換留学生の派遣と受け入れを実施しているのは、本学と学術交流協定を締結している10大学のうち、ルンド大学とアメリカのアラスカ大学フェアバンクス校の2校にすぎない。

ところで、ルンド大学からの短期留学の目的は日本語、日本文化と日本事情を理解するため、最初の3週間は日本語の授業、つぎの3週間は先端企業の見学、飛騨高山、上高地、京都、奈良の研修、最後の2週間は再び日本語の授業が組まれ、合計8週間のコースが設定されている。これらの内容と講師の配置については、国際交流室員会議で昨年の反省を踏まえて、本年度のものは大幅に改められたものである。

世話人の一人として、この8週間をふりかえてみると、いろいろな出会いと触れ合いがあった。すなわち、ルンド大学からファックスで送られてきた「岐阜大学夏期短期留学申込書」の写真と記載事項からどんな学生がくるのかという期待、6月3日午前の学内案内、午後のホームステイファミリーへの引き継ぎ、それから8週間にわたる付き合いである。一度に10人の学生を預かり、ホームステイにおける家族との融和、食生活、健康の維持、事故などに気配りをした。できるだけ、毎朝登校時に顔を見たり、会話を交わすことで、前記について確認をしたつもりである。最初の1週間の生活は非常に緊張していたようであるが、週末には国際交流室主催の歓迎会とそれに続く徹夜の2次会でそれまでに蓄積していたストレスが解消され、翌週からの生活はのびのびしたものになってきた。また、ホームステイファミリーからの自転車の貸与により、放課後にスーパーマーケットや長良川に行くなど、行動半径が大きくなり、留学生の生活を楽しく自由にさせたようである。

つぎに、両大学の学生間における交流についてみると、昨年と違い国際交流クラブの学生達が色々な企画を立て、市内の歴史博物館や大仏殿を案内したり、高山、京都の研修に同行したりして、交流の輪は広がってきた。ルンド大学の学生は約2年間にわたる日本語の勉強をしており、日常の会話には支障がないので、多数の学生が交流できる機会をもち、お互いに学び合ってほしい。

私の海外出張時の経験からみて、私は非常に数多くの人々の親切に支えられて、有意義な楽しい収穫のある生活をしてきたし、多数の友人を得たと思っている。そのようなことから、時間の許す範囲内で留学生の勉強になればと考え、宗教に興味をもつ数名の学生をミイラ仏のある横蔵寺や谷汲の華厳寺、高富の大龍寺、三田洞弘法に、その他山下鶴匠宅にも案内してあげた。このような触

れ合いの中で、10人の学生の気質もよく知ることができ、私自信の勉強にもなった。

ここで、この8週間の留学はすべてボランティアによるホームスティによって支えられていたことを紹介したい。確かに日本での家庭生活を通じて、日本事情を理解することは非常に有意義であり、その成果は認められる。しかし、現実をみると、8週間の比較的長期にわたる世話は日本人の気質からそれ相当の奉仕から成り立つものであり、今後もこの体制で留学生の受け入れを継続すべきかどうか考えさせられる。その理由はつぎのようなことにある。学内でホームスティファミリーを募集した結果、8週間の引き受けはいろいろな事情から少なく、留学生数を充たすことが出来ず、学外ならびに国際交流クラブに所属する学生の家に協力を求め、留学生の到着直前の6月1日の夜に10軒目が確保できた。一方では、本学の短期留学生をルンド大学に派遣した場合、住居はホームスティに依存していないからである。今後、両大学間で話し合い、無理のない受け入れ方法を引き出し、平等互惠による交流をはかりたいと考えている。

以上のように留学生との出会い、触れ合いを経て、7月28日には留学生の送別会を迎え、いささかさびしい気持ちになったが、10名の留学生の内、6名が岐阜大学に長期留学をしたいとの意思表示があり、近い内に再会できる可能性を残してくれたのは非常にうれしいことである。それぞれの学生はそれなりの収穫をもって帰国したことと思う。言語、歴史、風俗、習慣を異にする人と人の出会いと触れ合いが国際交流であり、今後の相互理解に努めなければならない。

最後に学内関係者各位、ならびに学生の生活を支えてくれたホームスティファミリーの方々にお礼を申し上げます。

(農学部獣医学科教授・ホームスティ担当)

ルンド大学短期留学生 から一言

ウルフ・アームストレム

日本へ来てからいいことも悪いこともけいけんしました。一番おどろいたことは、ほとんどぜんぶのことが、たいへんアメリカ的だということです。でも、本当の日本人は「日本人」の前の像と近いですが、前と比べると違います。そして最近の違いは、今本当の日本人に会ったりして知りました。

たくさんの丁寧で親切な人に会ったことがありますが、色々失礼で、「外人」や「へロー」とさげぶ人もいます。でも、一番大切なことだったホームスティが大変すばらしかったから、日本人のこの印象は主にとってもいいです。ほかの会った人々も面白かったです。つまり、今日本に少しあきたけれど、後でぜひ帰りたいです。



ペートラ・ノーレーン

日本来た時、私は日本語がたいへんへたでした。今はへたなだけです。日本にいる間にたくさん面白い経験しました。スウェーデンと日本をくらべるのはたいへんです。色々なことがあります。

時々いいことがあります、時々よくないことがあります。ホームスティのそしきはとてもいいと思います。それで本当の日本を経験することができます。けれども今少しつかれました。日本では女の人が暮らすのはたいへんと思います。私はもちろん日本人の性格と日本の生活をならいたために日本にきました。けれども時々それはわかりにくいですから、その場に適切なことをしたいのに、間違えます。

ステーン・スベンソン

日本人は欧米人より気にする人と思う。スウェーデンでは和食は高く、珍しい物が私は大好きだから、ここにいた時できるだけ食べた。日本人は欧米人より、ある気持ちをあらわすことができる。そのことはとてもいいと思う。日本の自然がたいへん損害を受けたことはざんねんだ。

ヨハン・ペーデルソン

日本はどうですか。そのしつもんはすこしこたえにくいです。ここにいた時は本当におもしろかったです。食べ物と生活は安かったので私達はうれしかったです。日本人はていねいです。そのことはいいけど、時どき本当のかがえはわかりにくいです。古いことと新しいことが同じ所にあります。あたらしい方はせいようてきだし、古い方は日本てきだと思ひます。その混合は前にしりませんでした。せいようてきなことがたくさんゆにゅうされたのに、外国人が来ると日本人はおどろきます。そのことは、はじめはおもしろかったです。でもあとでだんだんむずかしくなりました。日本人の宗教はしごとだと聞きました。そのことは今自分で見ました。日本の女の子は時どき子供っぽく見えるけれど、大へんきれいな人もいますよ。

日本を去るに あたって

勝浦 ソニア



日本での1年間の留学について、少し私の印象を書いてみたいと思います。けれども、それは特別な意味があります。それは、私が日系人だからです。

私にとって、日本は、他の国とは違った魅力がありました。

日本へ行くということは、祖国へ行くような気持ちがありました。そして、日本へ行けば多分、祖父母や両親達の色々な気持ちとか、考え方とか、生活習慣その他、理由がわかって来ると思っていました。

私は3世ですが、日本への関心は家族だけからの影きょうではありません。最近日本の文化が西洋に関心をもたれ、はやっています。

私は黒沢明が知りたかった。えん歌ではない日本の音楽も知りたかった。そして西洋人へ伝わった日本のイメージが実際かどうか、またその日本のイメージを、ブラジルの日本人から伝わったイメージと、比較したかったです。

西洋では、日本のイメージはちょっと神秘的であるとか、すばらしい国だと思われている。戦争に負けたけれども、見事に立ち上がった国、伝統とテクノロジーを持つ国。そして日本人の文化や生活の中には心を大切にした哲学があります。

はじめてブラジルへ渡った日本人にとっては懐かしさがいっぱいです。人によっては、日本を思い出すと、天国を思い出すみたい。でも実は移民する前の生活はまずしかったからブラジルへ渡ったのです。ある日本人は、祖国の日本について、大げさな自慢をする。でもそれは他の民族にもあるかもしれない。

私の家族は日本の典型的な家族ではなくて、よく見ると食べ物だけちょっと和食らしいです。それでも、日本の生活にすぐ慣れると思いました。

日本で困った事はなかったと断定します。でも、少しの落胆とか驚かせる物とか色々な発見をしました。数え切れないほどです。

日本で発見した物だけではなくて、人々の事もあります。それは当たり前です。この1年間は、私の勉強は皆さんと日本語で話すことでした。日常茶飯事ぜったい新しい事がありました。

落ち着いてから無数の事に気がつきました。その時、日本人とブラジル人の性質はずっと違うと分かりました。差を分かるのは別に難しくはないです。慣れるという事は、1年間ではちょっと無理だと思えます。でも何とか慣れた感じがします。

誰でも、他の国へ行くと自分の国の習慣と性格もついて行く。当然、文化と習慣も自分のと合わない所があります。習慣と性格が合わない所は批判するわけではないです。その代わりに、その国の歴史と社会を見なければいけないと思えます。そして、今まで日本人は日本の中で調和して生活をしてきたのです。日本は恥の文化で、そのままでは人間の発展は限られていると思えます。その面で、国際交流は難しくなります。日本人は外国人と接することは、まだ変だとか不思議に感じられます。人間と外人は同じことには見えません。

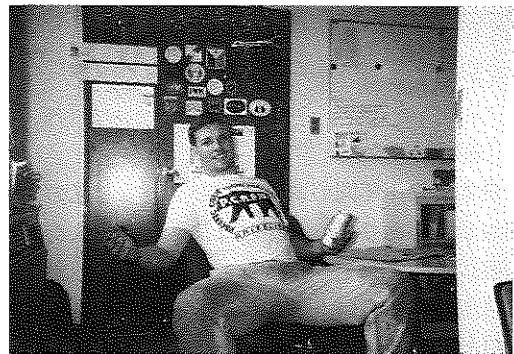
まだ日本人について色々な発見がありますけど、もうすぐ帰ります。この1年間は祖先のことについて、いい勉強になりました。ブラジルの日本人はずっと違いますから、多分、もう日本人と言えなくなりました。

(教育学部特別聴講生)

ケビン・ペリー

10カ月間日本にいて、いろいろなことを学びました。私は、いいことも悪い事も経験しました。留学してみて、アメリカにいた時とは、違った日本を発見出来ました。また、アメリカについても日本に来てから、新しい発見をすることができました。たくさん新しい友達もできて嬉しく思います。私は、日本の思いでをいつまでも忘れません。岐阜大学で勉強をさせていただいてとても感謝しています。先生方、学生の皆さん、どうもありがとうございました。いつかまたお会いできる日を楽しみにしています。

(教育学部特別聴講生)



ナタリー・ストロングウォーター

去年の8月に日本に来ました。来る前、予定はべつにありませんでした。大きな町より小さな町に住みたかったのです。日本人と日本の文化について勉強したかったのです。だから、このどうきのために、小さな町の岐阜にやって来ました。この決心は今考えると正しかったと思います。

たとえば、東京か大阪のような大きな町では、日本人の生活の仕方は西洋的になってきました。たとえば、たくさんの人は、英語が話せるし、看板も英語かローマ字で書いてあります。そして女の人は着物を着るのはちょっとめずらしくなりました。大きな町はかんこうちになつたのと、日本が経済の世界でじょうようになり、それにつれて国際ビジネスのセンターになって来たので、外面的には日本的な文化は減少してきています。それでも岐阜は、以前にくらべてあまりかわっていません。岐阜は現代になっています。そして皆、国際化を考えていますが、大きな町よりゆっくりと変わっています。おじいさんやおばあさんから孫まで、家族は今でもいっしょに住んでいます。人々がたんぼで働いているのや女の人が着物を着て買い物をするのが見られます。若い夫婦は大きな町に引っ越すのに、ろう夫婦は故郷に残っています。このために、岐阜は伝統的な日本文化をまもっていられるのだと思います。

岐阜には外国人が少ないので、子供たちはいつも自分たちとちがった人を気にとめます。

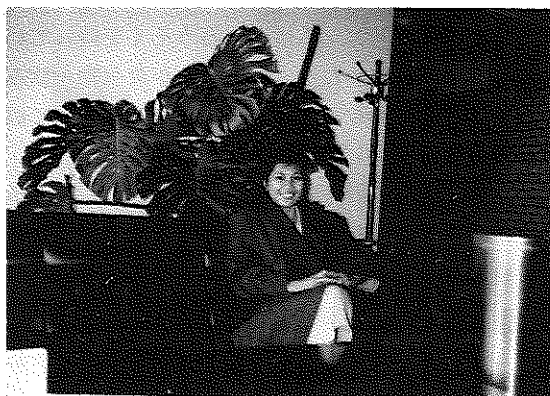
最近、岐阜はいろいろな国際センターを設立しています。教育的には岐阜の人々のために、これは本当に大切です。けれども、国際化していく時にも、自分たちがだれかを忘れないで、自分たちの文化を守りながら外の文化をうけいれて行くことをのぞみます。

(教育学部特別聴講生)



日本とフィリピンのお祭りを比べる

ミンダ・クエバス



日本に私は12カ月すんでいます。私がきづくことは、日本とフィリピンのおまつりは少し同じだということです。日本のおまつりのときの私のきもちも、いつも

“I am at home away from home.”

① 花火

日本の花火は8月です。フィリピンでも花火があります。日本の花火は2じかんぐらい。フィリピンの花火はそんなにながくありません。フィリピンの花火は、お正月のときにやります。岐阜で

花火はながら川のちかくです。フィリピンではマニラのリザルパークです。フィリピンではクリスマスのおいわいで花火をあげます。日本ではだいたいみなさんがなつにやります。でも日本の花火はもっとすごいとおもいます。

② 花見

日本では、4月と5月に沢山花がさきます。花のなまえはさくらやチューリップなどです。フィリピンでもいろいろな花がさきます。おまつりのなまえはフロレス・デ・マヨ。フロレス・デ・マヨはスペイン語のことばです。フロレスのいみは花です。マヨのいみは5月です。でもフロレス・デ・マヨは聖母にささげます。きょうかいで小さい女の子は聖母に花をささげます。おまつりは1カ月くらいです。さいごの日は、きれいな女性とハンサムな男性が、みちをパレードします。ふくはたいへんきれいです。かのじょは、じょおうさまみたいです。レードはきょうかいへきます。花は聖母マリアにささげます。

③ クリスマス

日本では仏教徒が多いので、クリスマスはしっそです。フィリピン人の80%はクリスチャンですから、クリスマスを盛大にいわいます。それは1年で一番にぎやかです。

日本の家では、クリスマスのかざりはあまりしませんが、子供たちはよくプレゼントのこうかんをします。

フィリピンではどこへ行ってもクリスマスのかざりが見られます。クリスマスうたがどこからでもきこえてきます。そしてクリスマスをいろいろな方法でいわいます。人々はカロレルスさんのうたをきいて、おかねをプレゼントします。クリスマスのときに、しんるいがみんなあつまって、パーティーをして、クリスマスうたをうたって、食べます。人々はプレゼントこうかんをします。人々はみんなクリスマスシーズンをたのしみます。

④ おぼん

日本もフィリピンもなくなったしんるいの人たちを思い出すのは同じことです。日本ではおぼんとよばれますが、フィリピンでは、オールソウルズデーとよばれます。日本のおぼんは8月におこなわれ、フィリピンは11月です。日本人は花とろうそくと線香とちょうちんを持っておはかまいりをします。フィリピン人は花とろうそくを持っていきます。そしてなくなったしんるいの人たちに祈りをささげます。たくさんの人々が食べ物と飲み物を墓地へ持って行きます。そしてそこで食べたり、話しあったりします。それはフィエスタに似ています。

日本とフィリピンではおまつりが多いです。フィリピンではおまつりをフィエスタといいます。フィエスタは聖人のえいよをたたえたり、しゅうかくに感謝するために行われます。理由は何であれ、フィエスタはわかちあう事なのです。なぜなら、フィエスタはフィリピン人にとって、完全な心のゆたかさをしめすひとつの方法だからです。

(教育学部教員研修留学生)



時 間 割 1989年度 後期

(平成元年10月9日～平成2年2月17日)

	月	火	水	木	金
9:10 1	・初級日本語クラス 1 及川 (日常会話)	・初級日本語クラス 4 後藤 (日常会話) ・PTPクラス 加藤	・初級日本語クラス 7 加藤 (文型) ・PTPクラス 大野 ・PTPクラス 大橋	・初級日本語クラス 8 河地 (作文・漢字)	・初級日本語クラス 10 後藤 (日常会話) ・PTPクラス 小野木
10:40 10:50 12:20	・初級日本語クラス 2 及川 (日常会話) ・PTPクラス 松井	・初級日本語クラス 5 後藤 (日常会話)	・生け花クラス 田中(亨) ・PTPクラス 松井 ・言葉の勉強会	・初級日本語クラス 9 及川 (日常会話) ・中級日本語クラス II 河地 (読解) ・PTPクラス 六郷	・初級日本語クラス 11 加藤 (文型) ・PTPクラス 河野 ・PTPクラス 古田 ・PTPクラス 渡辺
13:30 15:00	・初級日本語クラス 3 後藤 (日常会話) ・上級日本語クラス 加藤 ・PTPクラス 河野	・初級日本語クラス 6 及川 (日常会話) ・PTPクラス 脇田 ・PTPクラス 米増	・中級日本語クラス I 加藤 (漢字) ・洋裁クラス シエロ ・PTPクラス 毛利	・中級日本語クラス III 河地 (作文) ・PTPクラス 西村	・中級日本語クラス IV 加藤 (文型)
15:10 16:40	4				☆英会話クラス (12:30～13:30)

※ PTPクラス: person to person クラス

● 編集後記

暑かった夏もすぎ去り、熱爛に秋刀魚の似合う季節がようやく近づいてきました。国際交流室のこの夏最大の行事だったルンド大学短期留学も、ボランティアの方々の献身的なご努力と鈴木教授の超人的なお働きもあって、なんとか無事終えることができました。室員を代表して心より感謝いたします。

さて、ここに今年二回目の NEWS LETTER 第7号をお届けします。ルンド大生や帰国した留学生の感想を中心にまとめてみましたが、いかがだったでしょうか。小生自身は日本が想像以上に欧米化されていて、日本らしいところが少なかったというあるルンド大生とパーティで交わした会話に、真の国際化とは何かを改めて考えさせられたものでした。

NEWS LETTER ではみなさんからの投稿をお待ちしております。国際交流に関連があれば内容は問いません。学生・留学生諸君や教職員、ボランティアの方々など、どしどしご投稿ください。

(I. F)

発行 岐阜大学国際交流室
〒501-11 岐阜市柳戸1-1
電話(0582)30-1111
内線2380/2381
編集 藤田一郎・加藤由紀子

訂 正

誤

正

- P. 7 (月) 2時間目
PTPクラス 松井 → (火) 2時間目
PTPクラス 松井
- P. 7 (水) 2時間目
PTPクラス 松井 → (木) 1時間目
PTPクラス 松井
- P. 7 (水) 3時間目
洋裁クラス シエロ → (水) 3時間目
洋裁クラス 江口